

24 急性心筋梗塞患者に対する 退院時抗血小板薬処方率

指標の解説

- 心筋梗塞の再発や心筋梗塞に関連した心血管病での死亡を防ぐため、薬物治療を退院時に処方導入することはガイドラインで推奨されており、既に海外でも医療の質の項目に取り入れられている。
- 抗血小板薬（アスピリン、硫酸クロピドグレル、プラスグレル）は血栓形成を抑制する作用があるため、心筋梗塞の再発を予防するために、これらの薬剤を投与することが求められる。
- 処方対象とならない患者（例：当該薬剤に対してアレルギーがあった、冠動脈に高度狭窄は認められたが血栓性梗塞なしの病態像であった等）が分母に含まれていることに留意する必要がある。

分子：退院時処方でアスピリン、クロピドグレル又はプラスグレルが処方された症例数

分母：急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞の退院症例数

※ 死亡退院、転院、入院時重症度（Killip分類）がClass4の症例は除外

